

幼子とともに

2025 年度 1月号

はじめに

主の2026年を迎えました。幼稚園も3学期となりました。新年もどうぞ、よろしくお願い申し上げます。冬休みに入り、静かな日々を送っていましたが、今、オリーブの子どもたちの楽しく遊ぶ声が響いています。一年で一番短い保育期間ではありますが、一日一日を大切に、丁寧に、子どもたちと関わりながら歩んで参りたいと思います。至らぬところも多々あるかと思いますが、どうか、ご容赦いただき、子どもたちの成長をゆっくりと見守っていただくと願っています。

忙しい日々

どのご家庭も、年末年始は忙しい日々をお過ごしになられたかと思います。その忙しさの中で、子どもたちと関わる余裕も失ってしまうこともあったかもしれません。私自身も、幼稚園のクリスマスが二日間あり、そのすぐの日曜日は、教会のクリスマス、その三日後には、クリスマス・イヴ礼拝、その四日後には、日曜日の年末の礼拝、その三日後には新年礼拝をし、その三日後には日曜日の礼拝と、三日から四日ごとに礼拝やイベントが立て続けに行われ、準備等々に追われ、心も体も休む暇なく、今日を迎えています。思い返してみれば、子どもとクリスマスらしいこと、お正月らしいことは何もしていないなあと反省しています。

忙しいことは、決して悪いことではありませんが、読んで字のごとく忙しいというのは「心を亡くす」という意味でもあるわけです。余裕を失い、子どもたちとの時間を失い、心を失う。悪いことではありませんし、そうせざるを得ない場合もあるとは思いますが、同時に失うものも多いわけです。

私達人間の人生を100%とするならば、実質、子育てをしている比率は、5%程度であると言われてます。この5%が、子どもたちの人生の土台となるのです。この短い期間を、できるだけ、余裕をもって、子どもと付き合っていくことが大切になってくるわけです。忙しい日々の中で、その余裕をどれだけ得られるかが、子どもの人生に大きく影響を与えることもあるかもしれません。そのためには、まずは、私達自身が、忙しさの中で、休める瞬間をうまく見つける必要があるのかもしれません。

共働きの家庭が増えている昨今、うまく休みましょうというのは、なかなか難しいかもしれません。ただ休むというのは、キリスト教的に言うならば、神様に委ねる、ということでもあります。人間の手の業をとめ、一旦、神様にお任せして、心も体も休めるということなのです。勇気のいることではありますが、少しでも、心や体を休め、余裕をもって、子どもたちと関わっていく日々が与えられますように、心より祈っています。

三学期の姿

クリスマス、そして、冬休みを経て、子どもたちは、それぞれの個性を伸ばしつつ、また一つ成長していることと思います。三学期は、一年で一番短い期間であり、あっという間に過ぎ去っていきますが、子どもたちは、年齢問わず、屋内外関わらず、遊びが更に広がっていくと思います。満三歳クラスでは、少しずつやりたい遊び（目的を持った遊び）が固まっていくでしょうし、年少クラスでは、お友達と一緒に遊びが増えていくことでしょう。年中クラスでは、少しずつルールが含まれた小集団遊びが増え、年長クラスでは、一体感を持った遊びが広がっていくかと思います。勿論、成長・発達というのは、画一的ではありませんし、今、その子が自分でしたいと思ったことを、幼稚園では大切にしていきたいと思います。

そのような反面で、新年度に向けてのドキドキ、ワクワクが交差する時期でもあります。一つ上のお兄さんやおねえさんを意識したり、小学校に対する希望や不安が見え隠れしたりする様子が見られるかもしれません。場合によっては、不安な感情から、チックがでたり、赤ちゃん帰りや行き渋りがでたりするかもしれません。

しかし、そういう行き帰りを繰り返しながら、子どもたちは少しずつ成長をしていくものなのです。だからこそ、この時期は、特に子どもたちの成長を信じて待つ、ということが要となっていきます。幼稚園では、日々変化をしてく子どもたちの姿を、しっかりと観察し、どのようなアプローチに関わるべきかを慎重に吟味しながら、子どもたちと関わっていければと思っています。

小学校での生活

ばら組の子どもたちにとっては、幼稚園で過ごす、最後の期間となりました。いよいよ小学校の生活が始まります。越谷幼稚園は、遊びを中心にした自由保育を中心にしてますから、小学校での生活との間にギャップが生まれてしまい、学校生活に慣れるのに時間がかかることもあります。保幼小接続の課題は、まだまだ残されていますが、小学校によっては、まず遊びから始め、それを経て、授業に入るという仕方教授法を変えているところもあります。また、支援学級では、遊びや居場所づくりを中心にしつつ、それぞれの特性に応じて、分かりやすく少数数制で授業をしているところもあります。

しかし、小学校は、やはり小学校でありまして、時間割に厳しいところや遊びを抜いた授業をするところもまだまだあります。また、学童にも色々な形がありまして、ひたすら座らせて宿題や復習、予習をさせるところもあります（勿論、そのような学童ばかりではありません）。言い方は悪いかもしれませんが、担任の先生によっては、クラスの雰囲気もだいぶ変わっていきますので、気持ち的にはもはやガチャガチャを引くような感じであります。状況によっては、子どもたちの心が折れてしまうこともあるかもしれません。新しい環境、新しい人間関係を、ほぼゼロからしなければいけないわけですから。学校生活の様子、授業の持って行き方などを、一度聞いてみるのも良いかもしれませんね。

いずれにせよ、そこで重要になってくるのが、学校後の生活なのです。ただでさえ気を張った時間を学校で過ごした子どもたちが、家でも気を張らなければいけないとするならば、どんどんと居場所を失うことになるわけです。子どもたちの本音は、学校の授業の外で語られるものです。学校での様子やしんどいこと、楽しかったことなど、その一日の出来事を、ゆっくりと聞いてあげる時間が大切になると思います。その上で、心配事がありましたら学校の担任に相談したり、校内カウンセラーなどに話を聞いてみたりするのも良いと思います。

越谷幼稚園のような幼稚園で育てられた子どもたちは、スタートこそゆっくりではありますが、時機がくれば誰よりも力強く走り抜ける子どもが多いと言われています(統計的にも)。子どもたちの成長を信じて待ちつつ、もっともよい環境づくりを家庭でも提供してあげてください。また、日曜日の教会学校を利用いただければ、幼稚園との繋がりや保護者同志の繋がりを継続させることができますから、よい相談ができるかもしれません。

園 長 須賀 工

栄養士だより 《やはり基本はバランス！》

一番寒い中、3学期が始まりました。寒さの中でもへっちゃらで遊ぶ子どもたちにたくさんの元気をいただいています。「次世代の生活習慣病発症リスクは妊娠前・妊娠中・乳幼児期の栄養で決まる（DOHaD ドーハッド説）」何やら難しいタイトルですが、DOHaD 説とは、将来の健康や特定の病気へのかかりやすさが、胎児期や生後早期の環境の影響を強く受けて決定されるという概念で、生活習慣病などの非感染性疾患（NCD）の予防や治療を考える上で非常に重要視されている。という内容の講演を聞いてきました。要するに、胎児期から乳児期、さらに幼児期にかけての環境が、その人の一生の健康に大きな影響を与える。ということで、例えば妊娠中のママがバランスよく食べ、ストレスを減らすことは、赤ちゃんの将来の健康を守る第一歩で、未来の生活習慣病予防につながる大切な行動です。つまり健康は「生まれる前から育てるもの」だということです。専門的には、葉酸など微量栄養素のお話などありましたが、やはり日常生活では、なんでもバランス良く食べることが基本なんだなあと思いました。あまりストイックにならず、3日とか一週間くらいのスパンで考え、食べ過ぎてしまったら気をつける、とか、炭水化物オンリーになっていないかな、とか、ちょっとだけ振り返りながら過ごしてほしいなあと思います。何か疑問点などありましたら、お声をおかけください。お待ちしています。

いけだ かずみ